

---

# JP1 / Automatic Job Management System 3 × UiPath Orchestrator連携ガイド

本資料は、UiPath製品と JP1製品との連携設定の事例を明らかにすることで、業務自動化の範囲を広げ、運用の効率向上を図ることを目的としています。

## 検証環境

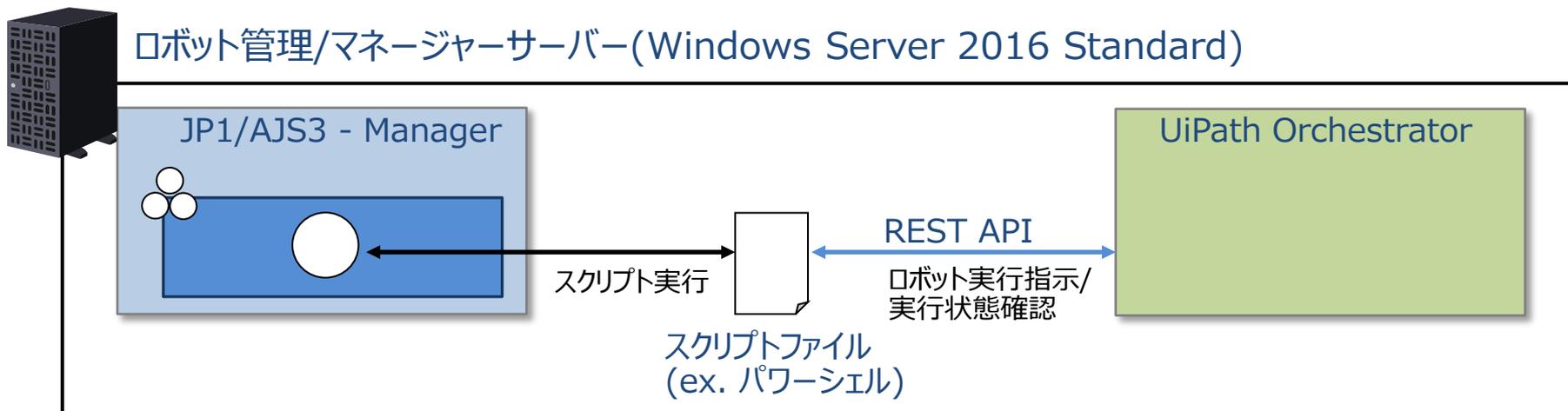
検証を行った各ツールのバージョンは以下のとおりです。

製品名	バージョン	対象OS
UiPath Orchestrator	v2019.10.1	Windows Server 2016 Standard
UiPath UnAttended Robot	v2019.10.4	Windows 10 Enterprise
JP1/Base	12-00	Windows Server 2016 Standard
JP1/AJS3 – Manager	12-00	Windows Server 2016 Standard

## 2. UiPath Orchestrator連携の概要

### 概要

UiPath Orchestratorが提供しているAPIを利用してスクリプトファイルを作成いただくことで、JP1/AJS3のジョブからUiPath Orchestratorに対してロボットの実行指示や状態の確認を行うことができます。



### 備考

JP1/AJS3のジョブの作成/実行/監視など基本的な操作の流れに関しては、下記マニュアルをご参照ください。

<https://itpfdoc.hitachi.co.jp/manuals/3021/30213D2000/INDEX.HTM>

JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)

## スクリプトファイル内で使用したAPI

JP1/AJS3のジョブから実行するスクリプトファイル(パワーシェル)を作成します。  
検証時に利用したスクリプトファイル内の大まかな流れとAPIは以下のとおりです。

### スクリプトファイル内の大まかな流れ（検証時の作成例）

- ① UiPath Orchestratorにログインする
- ② リリース済みのプロセス一覧を取得する
- ③ 実行対象のプロセスキーを設定する
- ④ ジョブを実行する
- ⑤ ジョブの実行結果を確認する  
(一定間隔で稼働情報を取得し状態を判定する)

## スクリプトファイル内で使用したAPI

(続き)

API	内容
/api/Account	UiPath Orchestratorにログインします。
/odata/Releases	UiPath Orchestratorにリリースされているプロセス一覧を取得します。
/odata/Jobs/UiPath.Server.Configuration.OData.StartJobs	ジョブを実行します。 ロボットグループに対して、任意の一つのロボットで実行する場合、要求内容を次のようにします。 "Strategy" = "JobsCount" "JobsCount" = "1"
/odata/Jobs(\$jobId)	実行したジョブの結果を確認します。

※各APIの詳細や仕様はUiPathのマニュアルをご確認ください。

## JP1/AJS3のジョブの設定方法

JP1/AJS3でUiPath Orchestratorと連携するためのジョブネットおよびジョブを作成し、作成したスクリプトファイル（パワーシェル）を指定してください。  
 (今回の事例ではWindows環境でジョブを実行してパワーシェルを呼び出しているため、「PCジョブ」を利用して、実行ファイル名にはパワーシェルを指定している)

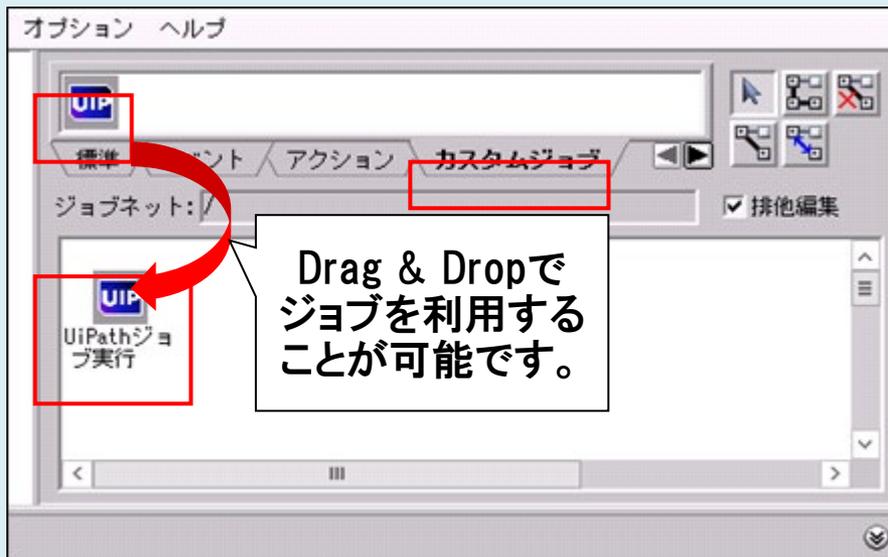
項目	設定例
実行ファイル名	パワーシェルの実行ファイル(powershell.exe)をフルパスで指定します。
パラメーター	以下のパラメーターを指定します。 ・-ExecutionPolicy : RemoteSigned ・-File : 実行するパワーシェル(.ps1)ファイルを指定します。

## UiPath Orchestrator連携用カスタムジョブ

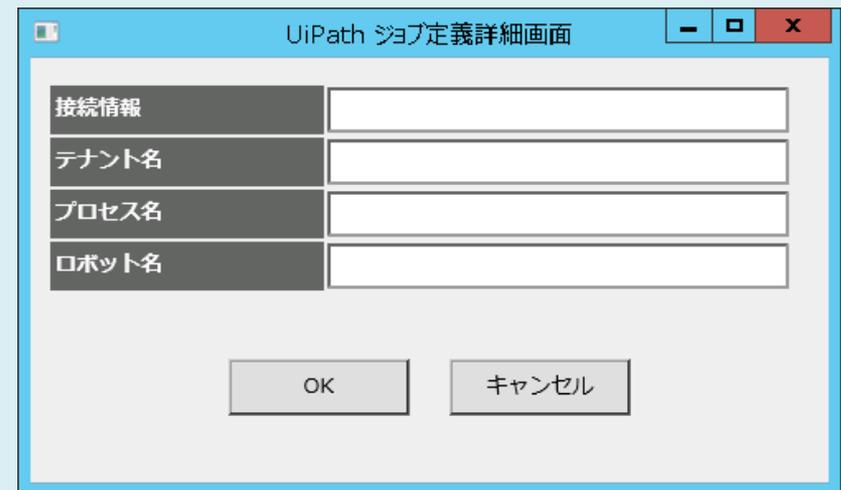
日立製作所でJP1/AJS3からUiPath Orchestrator連携用のカスタムジョブを提供するソリューションを販売しております。

カスタムジョブを利用することで、スクリプトファイルを編集することなく、GUI画面上からUiPath Orchestratorで実行するプロセスやロボットを指定することができるため、直感的に利用しやすいジョブ運用を行うことができます。

JP1/AJS3の[ジョブネットエディタ]ウィンドウの[カスタムジョブ]タブにUiPath連携用のカスタムジョブが配置されます。



詳細画面で実行したいテナント名やプロセス名を指定することで、UiPath Orchestratorを経由してロボットを実行することが可能です。



## 略称一覧

JP1/AJS3 : JP1/Automatic Job Management System 3

PowerShell : Windows PowerShell(R)

Windows 10 Enterprise : Windows(R) 10 Enterprise

Windows Server 2016 Standard : Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard

## 他社商品名、商標などの引用に関する表示

- ・ UiPathはUiPath社の米国およびその他の国における商標です。
- ・ Windows, Windows PowerShellは, 米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

※本資料に記載の情報は、2020年8月時点の特定環境における連携の検証結果をご紹介します。

- ・ 画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。
- ・ UiPath Orchestratorに仕様の変更がある場合は、連携方法が変わる場合があります。

---

**JP1 / Automatic Job Management System 3**  
**×**  
**UiPath Orchestrator連携ガイド**

**HITACHI**  
Inspire the Next 